

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 7月

「この日を神と共に」 「人の起源、性質、運命」 「準備された品性」 「ワンタンの餃子」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「人の起源、性質、運命」

4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」

9

This Day with God

現代の真理

「準備された品性」

41

清めの特別な働き

力を得るための食事

「ワンタンの餃子」

46

お話コーナー

「キリストの教え (I)」

48

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2017年6月30日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sermon view on pages 9, 41, 48

天上の科学

キリストは、わたしたちが、神をますます信頼するようになるために、神を新しい名、すなわち、人の心に最も親愛の情をいだかせる名で呼ぶことをお教えになった。彼は無限の神を、わたしたちの父と呼ぶ特権をわたしたちにお与えになった。神に向かい、また人の前で用いるこの父よという呼び名は、わたしたちの神に対する愛と信頼のしるしであると同時に、神のわたしたちに対する保護と、神とわたしたちとの関係を保証するものである。わたしたちが、神の恵みや祝福を求めるときにこう呼びかけることは、神の耳に音楽のようにひびくのである。こうして、神を父と呼ぶことは、少しも出すぎたことでないことを示すために、主は、このことについてくり返してお教えになった。主は、わたしたちが、この名称によくなれるようにお望みになるのである。

神は、わたしたちを神の子供たちとみなしておられる。神はわたしたちを冷淡な世からあがなって、王族の一人とし、天の王のむすこ、娘としてくださった。わたしたちは、子供が地上の親を信頼する以上の強い信頼感をもって神に信頼するようにと、神は招いておられる。親は子供を愛する。しかし、神の愛は、人間の愛がとうてい及び得ないほど大きく、広く、深いものである。それは測りしることができないものである。世の親が自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊をくださらないことがあるか。

祈りについてキリストが教えられたことは、注意深く考えてみなければならない。祈りには、天上の科学がかかされている。そしてイエスのこのたとえには、すべての者が知らなければならない原則が明らかに示されている。すなわち、祈りの真の精神とはなんであるかということと、神にお願いをするときには、どうしても忍耐が必要なことを神は教えておられる。そして、神は喜んで祈りに耳を傾け、祈りに答えてくださることを、保証なさるのである。(キリストの実物教訓 118, 119)

23章 人の起源、性質、運命

神は人を生きた魂として造られ、神のみかたちにかたどられた自由な道徳的行為者として、ご自分の栄光のために創造されました(創世記 1:26-28; 2:7; 詩篇 8:4-6; イザヤ 43:7)。人は生来、無条件の不死を授けられてはいませんでした。ただ神に従うことによって、そして命の木から取って食べることによって自分の存在を永続させることができました(創世記 2:9, 16, 17)。人はその不従順によって、命の木に近づく権利を失い、自分の造り主の栄光に足りないものとなり、命の源から分かれました。罪はアダムとそのすべての子孫に死をもたらしました(創世記 3:19, 22-24; 伝道の書 12:7; イザヤ 59:2; ローマ 5:12, 17; エゼキエル 18:4; ローマ 6:23)。

神のみかたちに創造される

「神はご自分のかたちに人間を創造された。そこにはあいまいさが全然ない。動物や植物などの下等な生命形態から、次第に発達した段階をたどって、人間は進化したのだと想像する余地は全くない。こうした考え方は、創造主の偉大なわざを、人間的な狭い、地上的な考え方のレベルに引き下げる。人間は、宇宙の王座から神を追い出そうと努める結果、人間自身の品位を低め、人間の崇高な起源を見失っている。星空を高くすえ、野の花を巧みに飾り、み力の奇跡によって、驚くべきものを天地の間に満たされたおかたは、その輝かしいみわざの最後を飾るにあたって、人間をこの美しい世界の統治者としておたてになったが、それは生命の賦与者のわざに恥じないものであった。靈感によって与えられた人類の系図は、その起源を、細菌、軟体動物、四足獣などの進化の跡をたどるのではなくて、偉大な創造主に帰着させる。アダムは、土のちりて造られたが、『神の子』であった(ルカ 3:38)。」(人類のあけぼの上巻 18)

条件的な不死

「服従することを条件として人間に約束された不死は、戒めにそむいたために

失われた。アダムは、自分が持っていないものを子孫に伝えることはできなかった。もし神が、み子の犠牲によって、不死を与えてくださらなかつたら、墮落した人類に生きる望みはなかつたのである。……

アダムに向かって、服従することなしに生命を約束したのは、大欺瞞者サタンだけであつた。そして、エデンの園でへびがエバに言った『あなたは決して死ぬことはないでしょう』という言葉は、靈魂の不滅について語られた最初の説教であつた。しかも、サタンの権威だけに基づくこの宣言が、キリスト教界の講壇からくり返して叫ばれ、そして、われわれの祖先が受け入れたように、人類の大部分は、簡単にそれを受け入れているのである。」(各時代の大争闘下巻 279, 281)

「罪を犯す前のアダムは、創造主との隔てのない交わりを楽しんでいた。しかし、罪が神と人間との間を隔ててしまった。そして、キリストの贖いだけが、この深淵に橋をかけ、天から地に祝福と救いがもたらされることを可能にした。人間は、創造主に直接近づくことはできなかったが、神は、キリストと天使たちによって人間と交わられるのであつた。」(人類のあけぼの上巻 60)

「アダムとエバの目は開かれたが、何に対してであつたのだろうか。自分自身の恥と破滅を見て、自分たちの保護となつていた天来の光の衣がもはや防御として自分たちを覆っていないことを悟つただけであつた。彼らは不法の結果が裸であることを見た。彼らが園で自分たち創造主のみ声を聞いたとき、このお方から身を隠した。なぜなら、彼らはかつては知らなかつたもの一神の非難—を予期したからである」(サインズ・オブ・タイムズ 1901年5月29日)

「アダムは、罪を犯した後で、まず第一に、自分がこれまでより高い存在状態にはいったような気がした。しかし、間もなく、罪の意識は彼の心を恐怖で満たした。これまでなごやかで一様だつた気温が、罪を犯したふたりにはだ寒く感じられた。これまで彼らの心に宿つていた愛と平和はなくなり、その代わりに罪の意識と未来への恐怖と魂の空虚さを感じた。彼らを取りまいていた光の衣は消えてしまった。それで、彼らは、その代わりに衣服をつくろうとした。彼らは、何も着ないで、神と天使たちに会うことはできなかった」(人類のあけぼの上巻 45)

キリストを通してのみ得ることのできる不死

アダムの墮落の結果として、男女は死すべきものとなり、死の支配下に入りました。そして彼らの子孫は遺伝的に不従順という傾向をもって生まれました(詩

篇 51:5; ローマ 3: 10-18; マルコ 7:20-23; エレミヤ 17:9)。人類は、ただキリストを通してのみ、罪から自由にされ、神のご品性が彼らのうちに回復され、神のみ前にもととの地位 (マタイ 5:48) を得ることができます (ローマ 3:23-26; 使徒行伝 4:12; ヨハネ 8:36; 14:6; コリント第二 5:19; テトス 2:13, 14; 3:3-6)。

永遠の命を求めて、この備えを受け入れる人々はキリストの再臨の時、すなわち眠っている聖徒たちが天使長のみ声によって命へ呼び戻されるときに、不死を受けます (ローマ 2:6, 7; 6:22, 23; 8:11; コリント第一 15:20-23, 51-54; テサロニケ第一 4:13-17)。

「エデンにおいて、人類はその高い状態から墮落し、不法を通して死の支配下に入りました。天で、人類が減びつつあることが見られ、神の同情がかき立てられました。このお方は無限の代価をもって救済の手段を講じられました。このお方は、『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも減びないで、永遠の命を得るためである』(ヨハネ 3:16)。違反者にとって、キリストを通してでなければ希望はないのであった」(教会への証 8 巻 25)

「善悪を知る木の実を食べた結果は、すべての人間の経験にあらわれている。人の性質には、悪への傾向、すなわち自力だけでは抵抗し得ない一つの力が働いている。この力に抵抗し、魂の奥底に唯一の 価値を感じている理想を達成するためには、ただ一つの力に助けを求めてすぎるよりほかに道はない。その力とはキリストである。この力と協力することが、人にとって最大の必要である」(教育 21)。

「キリストの教えはわたしたちにとって、命の木の葉のようなものである。命のパンを食べて消化するとき、わたしたちは均整の取れた品性を表すようになる」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト] 5 巻 1135)

死者に意識はない

第一の死、すなわちわたしたちがみな支配下にある死は、完全に命のない状態であり、深い眠りとして表されています (伝道の書 9:5, 6; 詩篇 6:5; 115:17; 146:4; 伝道の書 3:20; イザヤ 38:18, 19; ヨハネ 11:11-14)。

死者は墓の中にいる

死んだときに、善人が天国へ行くわけではありません。また悪人が地獄(火の池)に行くわけではありません。すべての人は、善人でも悪人でも墓へ行くのです(ヨブ 7:9, 10; 14:10-14; 17:13-16; 伝道の書 9:10; 詩篇 89:48; 104:29; 使徒行伝 2:29, 34; ダニエル 12:13; ヘブル 11:13; 黙示録 11:18)。

死後の命は、ただ復活を通してのみ

義人は復活することになります(ヨブ 14:14, 15; 19:25-27; ホセア 13:14; ヘブル 11:39, 40; ヨハネ 11:38, 39, 43; コリント第一 15:51; テモテ第二 4:7, 8; ヨハネ 11:25)。キリストの再臨の時に、彼らは天へ連れていかれます(テサロニケ第一 4:13-17; ヨハネ 14:1-3)。死んだ悪人は、苦難の場所にいるわけではありません(ペテロ第二 2:9; ヨハネ 5:28, 29)。彼らは千年期の終わりによみがえらされます(黙示録 20:5, 6)。

「キリストは、信じる子らにとって死は眠りであると言っておられる。彼らの生命はキリストとともに神のうちにかくれているのであって、最後のラッパが鳴りわたるときまで、死ぬ者はキリストのうちに眠るのである」(各時代の希望中巻 341)。

「キリストは、われわれがキリストと一つ精神になるために、われわれと一つ肉体になられた。われわれが墓から出てくるのは、この結合によるのである。すなわちキリストの力のあらわれとしてだけでなく、信仰によってキリストのいのちがわれわれのものとなったからである。キリストの真の品性を見、キリストを心に受け入れる者は、永遠のいのちを持つ。キリストがわれわれのうちに住まれるのは、みたまを通してであり、神のみたまが信仰によって心に受け入れられるときに、それは永遠のいのちの始まりである」(同上 135, 136)。

「わたしたちの個々の特徴は、墓に下った時と同じ物質の粒子でも材質でもないが、復活の時に維持される。神の驚くべきみわざは人にとって神秘である。人の霊、人の品性は神に戻され、そこで保持されるのである。復活において、一人びとりは自分自身の品性を持つことになる。神はご自身の時において、死せる者を呼び出だし、再び命の息をお与えになり、渴いた骨に生きよとお命じになる。同じかたちが出てくるが、病気やすべての欠陥はなくなっている。それは再び同じ機能の個性を帯びて生きるため、友人は友人を認める。自然界における神の法則には、死ぬ前に体を構成していたのと同じ物質の粒子が戻ってくることを示すものはない。神は、死せる義人に、ご自分が喜ばれる体をお与えになるの

である。パウロはこの主題を地にまかれた穀粒によって例示している。植えられた穀粒は朽ちるが、新しい穀粒が出てくるのである。穀物のうちにある朽ちた自然の物質は、二度と以前のように出てくることはない。しかし、神はご自分の喜ばれる体をそれにお与えになるのである。人の体をはるかにもっと優れた要素が構成するであろう。なぜなら、それは新しい創造、新しい誕生だからである」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 6 巻 1093)。

悪人の運命

悪人が裁かれた後に(黙示録 20:4)、彼らは千年期—黙示録 20 章にある千年間—の終わりに、自分たちに割り当てられることになる第二の死(破滅、絶滅、消滅、あるいは壊滅)を受けます(黙示録 20:9, 15, 14; マラキ 4:1, 3; 詩篇 37:9, 10, 20, 38; オバデヤ 15, 16)。

この日を神と共に

This Day with God



7月

7月1日

憐れみ深い救い主

「そこで、大急ぎで彼を送り返す。これで、あなたがたは彼と再び会って喜ぶ……」ことができよう。こういうわけだから、大いに喜んで、主にあって彼を迎えてほしい。また、こうした人々は尊重せねばならない。彼は、わたしに対してあなたがたが奉仕のできなかつた分を補おうとして、キリストのわざのために命をかけ、死ぬばかりになったのである。」(ピリピ 2:28-30)

主から多くの啓示を受けていた使徒パウロはさまざまな源から発する困難に、また彼のあらゆる闘争と失望のただなかで困難に出会ったが、神への信頼と確信を失わなかった。御霊による特別の指導の下で、彼の判断力は清められ、精錬され、高められ、聖化された。彼に対する人間や敵の工作は彼にとって訓練と教育の手段であったので、彼はこのようにして最も優れた知識を得たと宣言する。なぜなら彼は主イエスに頼ったからである。「更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている」と彼は宣言する(ピリピ 3:8)。……

イエスのご自分の奉仕に献身している人々、また大きな困難のもとで自分の働きをしている人々が感じる悲しみの激しい痛み一つ一つを感じられる。イエスの愛のうちに宿ろう。それはわたしたちが勇気と信仰を持つことができるためである。主は生きておられ、また支配しておられる。わたしたちを混乱させようとする無分別な助言者がいるであろうが、イエスを見つめ、どのようなときもこのお方を信頼しよう。このお方はわたしたちの助け主であられたし、またこれからもわたしたちの助け主であり続けられる。……ときどきわたしはどうしてよいかわからず非常に当惑することがあるが、失望はしない。わたしは自分の生活のなかに持ち込めるすべての日光を持ち込む決心をしている。

神の働きを進めようとしていることで負っている負債がときどきわたしを悩ませる。オーストラリアでの働きを前進させようとするることによる負債にわたしは関わっている。「各時代の希望」の出版は非常に費用がかかり、わたしはまだ出版社にいくらか負債を負っている。……

わたしが今住んでいる家は借金をして支払ったものである。この家を買ったのと同じくらい、わたしはこの家を処分したいと思っている。わたしにはこの世に住む場所はない。主が「行って、新しい場所で働きを興しなさい」と言われるなら、わたしは喜んで行く。……

わたしの信頼は揺らぐことはない。落胆することもない。なぜならキリストのみ手をしっかりとつかむことができるからである。他の人々がわたしたちを通して落胆の精神を捕らえることがないように、いつも快活でいよう。(手紙 127, 1903年7月1日 長年エレン・ホワイと共なる働き人で、このときは町なかの伝道に携わっていたS、N、ハスケル長老へ)

あなたがたはみな兄弟

「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。」(ペテロ第一 5:2, 3)

だれが人に命を与えたのだろうか。だれが人に理性を与えたのだろうか。神ではなかったか。自分が呼吸する一回一回の空気を神に頼っているクリスチャンは、自分が兄弟よりも上であると感じないようにしよう。自分が彼らに命と知性を与えたかのように、そしてそれゆえに彼らは自分に対して責任があるかのように、指図するべきではない。

神が、容認なさらないような精神がわたしたちの間に入り込んできている。クリスチャンは自分が神の嗣業の統治者であると決して思ってはならない。クリスチャンの間にはだれかを保護者とし、だれかを被保護者とする精神があってはならない。神の戒めはこのことを禁じている。「あなたがたはみな兄弟である」(マタイ 23:8)。だれも自分が兄弟たちの思いと能力の所有者であると考えべきではない。他の人が自分の指図に従わなければならないと考えるべきではない。その人はだれもがそうであるように間違いをしがちであり、過ちを犯しやすいのである。自分の考え通りに事を運ぼうとすべきではない。

この自己高揚の精神に屈する人は自分自身を敵の支配下に置く。もしも福音の聖職者たちが彼の考えと思ひ込むことすべてについて調和できないなら、彼は彼らに背を向けて離れ、牧師や聖職者に自分の心の中にある当てこすりや皮肉を浴びせかけつつ、彼らに敵対して語る。

この働きは何一つ天の署名を帯びていない。クリスチャンはキリストの優しさをあらわすべきであり、もしキリストが内住しておられるなら彼らはそうするのである。彼らは兄弟のうちにキリストを認める。彼らは共に思いやりのある勧告を行なう。もしも真理に従って人間の歴史の暗い章がたどられるなら、大いに権威を行使する人々や、他の人々は自分が指図通りにするべきだと思ふ人々は、どれだけ自慢することできようか。

イエスをご自身の純潔と完全な聖潔の生涯の中でわたしたちに模範をお与えになった。天で最も高められているお方イエスは奉仕する用意が最もよくできているお方であった。最もあがめられているお方が、ほんの少し前にこのお方の王国でだれが最も偉大であるかと議論していた人々に仕えるためにご自分を低くされた。

他人の損失によって自分の好むことを得ようとすることは得るのに非常な犠牲を払う経験である。(手紙 92, 1900年7月2日、J・K・ケロッグ博士へ)

7月3日

自尊心のための場所はない

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。」(ペテロ第一 5:5, 6)

主はご自分の約束と警告の真実性について豊かな証拠を与えてくれたので、このお方の民はそのみ言葉に信頼することができる。それでは光と証拠にもかかわらず、彼らは自分自身の選ぶ進路に従い、神より油が注がれた人々に頼らないのであろうか。良い人々であつても、いたるところで守られる必要がある。彼らが神のお与えになった祝福にあまりにも高められ、世俗の拍手喝さいや賞賛に刺激されて、自分たちの偉大な知恵や偉業を誇示することのないためである。

主は見ておられ、主は知っておられる。このお方はそのような切望をすべて確実に卑しめられる。なぜなら主は自尊心、利己心、貪欲を憎まれるからである。働きそのものが繁栄していればいるほど、あたかも自分たちが高められるべき人々であるかのように、自分自身を高める理由はますますなくなる。わたしたちの信頼を神におかなければならない。神は人に才能と能力を委ねられたが、それは人が神の働きの中で卓越した役割を果たすことができるためである。どのようにして自分を高めるようになるのか、彼らに注意を払わせよう。……

シオンに恩寵を表わすために定められた時がまもなく来る。神はご自分の働きが成就するために人と財産を供給された。このお方はご自分の民が恥じ入るままに放つてはおかれず、ご自分の働きを成就される。神の働きはこのお方が進むようにと命じられたように進む。キリストとのわたしたちの契約は世話をしている羊飼いの親切と優しさを全能の王なるお方と結びつける。どうかイザヤ42章を読むように。

神はご自分が人に対して持つておられる主張を彼らが理解するよう望んでおられる。このお方は、贖われた者のために築かれていない道へ人々を導こうとして、同胞と彼らの神のあいだに割り込む者はだれでも裁かれる。「世の初めからこのお方のすべての働きは神に知られており」(使徒行伝 15:18)。神は、ご自分の働きがはっきりと神聖で聖なる方針をもって世の前に示されるよう命じておられる。神の王国は監視することによってくるのではなく、神のみ言葉の感化の優しさによって、魂のうちにある神の御霊の働きによって来る。世界の多くの場所での神の働きは、神が任命しておられない働きをするために、人が民と神とのあいだに割り込んでいなければ、今、はるかに前進していたのである。(手紙 93, 1900年7月3日、世界総会総理G・A・アーヴィンへ)

イエスは顧みられる

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」(ペテロ第一 5:7)

わたしはあなたにただ一つの確かで過ちのない保護を指し示す。あなたとあなたの愛する子供たちをどうか見守り祝福して下さるようにと神に求めなさい。このお方はそれをしてください、その約束は確かである。神、すなわちあなたの天父はかたわらにいて、あなたが必要なときに勧告し、導き、慰めるあなたの夫となられるであろう。ああ、力強いお方にいつでも助けを求めなさい。その伸ばした腕は救ってください。

あなたの事情は非常に苦しいものかもしれないが、失望してしまつてはならない。あなたの心はほとんど打ちひしがれてうずいているであろうが、信頼し、希望を持ちなさい。「彼は心から人の子を苦しめ悩ますことをされないのである」(哀歌 3:33)。決してあなた自身に悲しむことを許してはならない。神にあって望みを抱き、いつも快活でいなさい。そうすれば、やがてもっと輝かしい朝が訪れるであろう。

忍耐強く善をなし続けることによって、あなたはこの悲しみと紛争の世を通して、栄光と栄誉と永遠の命に導かれるであろう。あなたのうちに神がおられ、また頭上に神がおられるなら、何も恐れることはない。聖書は暗闇にいる人々にとって光である。最後まで耐え忍ぶ人々に与えられるこの上なく幸福な不死を見通すとき、あなたは高める力、あなたが悪に抵抗するために必要な強さを見出すであろう。試練のときに堅固でありなさい。そうすればついには決して朽ちることのない冠をあなたは得る。

あなたには上からの導きが必要である。心を尽くして主に信頼しなさい。そうすればこのお方は決してあなたの信頼を裏切ることはない。あなたが神の助けを求めるとき、無駄になることはない。確信と信頼を持つようにと主は聖なるみ言葉と御霊によってわたしたちのそば近くに來られ、幾千もの方法でわたしたちの信頼を勝ち取ろうと努力される。しかし力強さを求めてご自分のところへ来る弱い者を受け入れることほど、このお方にとって喜びとなるものはない。もしわたしたちが祈る心と声を見出すなら、このお方は必ず聞く耳と助ける腕を見出される。神が民の嘆願から御顔を隠すようなことは一瞬たりともない。他のあらゆる手段が尽きるとき、このお方はあらゆる緊急時にいと近き助け手である。神は哀れな、打ちひしがれ、傷ついた魂であるあなたを祝福される。このお方のみ手にすがりつき、しっかりとつかんでいなさい。このお方はあなたとあなたの子供たちを、そしてあなたが悲しみと重荷をすべて預けるなら、それらを、みな受け取ってください(手紙 42, 1875年 7月4日、最近夫を失った姉妹へ)

7月5日

真理は勝利する

「悪巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。」(コリント第二 4:2)

主が多くの奇跡的な証拠によって提示された基本的な真理の土台が侵食されるようなことがあってはならない。真理の敵からやってくる無神論や詭弁に対して反論し、真理を明確に断言する声が聞かれなければならない。改革が行なわれ、神の真理の原則からの働きが恵みのうちに発展をみせる。なぜなら神の働きは人間の理解を啓発し清めるのに十分だからである。

キリストのうちにあるがままの真理は、このお方が渦巻く雲ですつぱりと包まれていたときに、このお方によって宣言されたときのように、わたしたちの時代にも実在しており、真理である。そして、過去に思いを回復したように確かに受ける者の思いを回復する。キリストは「もし彼らがモーセと預言者と共に耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう」と宣言された(ルカ 16:31)。

民としてわたしたちは、圧倒的な支配力を及ぼす聖霊の導きのもとに、福音をその純潔さのうちに広めるために、主の道を備えなければならない。生ける水の流れはその進む路で深く広くならなければならない。人々があらゆる分野で、近くから遠くから、思いを大きく占めている鋤の場やもっと一般的な商売の職場から召され、経験を持っている人々、すなわち真理を知っている人々との交わりの中で教育されるであろう。神の最も素晴らしい働きを通して、困難という山は移され、海の中に投げ入れられる。……

真理を説く人々は秩序のある生活と信心深い会話によって真理を示すために努力をする。そして彼らがこうするとき、力強く真理を擁護し、また神がなされたようにその真理を確実に適用するようになる。……

「子よ、きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ」という召しが出されている。この召しに従うとき、地の住民にとって非常に多くのことを意味するメッセージが聞かれ、理解される。人々は何が真理かを知る。前進また前進が仕事を進ませる。そしてみ摂理のはっきりとした出来事が審判の場で祝福のうちに見られ、認められる。真理は勝利を勝ち取る。(手紙 230, 1906年7月5日、バトルクリーク教会の長老、牧師、医師へ)

み言葉を説く

「この民がすべて陰謀ととなえるものを陰謀ととなえてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。またおののいてはならない。」(イザヤ 8:12)

わたしたちの働きは第一、第二、第三天使のメッセージを世界に布告することである。わたしたちの義務を果たすにあたって、わたしたちは敵を軽蔑するべきでも、恐れるべきでもない。わたしたちの信仰を持たない人々との契約を結ぶことによって結合することは神の秩序のうちにない。

神に忠誠を尽くすことを拒む人々を親切にまた礼儀正しく取り扱うべきではあるが、神の働きに関する勧告や重要な利益について、わたしたちは決して彼らと一致すべきではない。なぜならこれは主の方法ではないからである。神を信頼しつつ、わたしたちは利己心なく神の働きをしながら、神にへりくだって頼り、わたしたち自身をささげ、神の賢明な御摂理にわたしたちの現在と未来に関するすべてを捧げとぎつつ、はじめから終わりまで堅く信頼して、わたしたちが天の祝福を受けるのは、わたしたちに価値があるからではなくキリストの価値のゆえであることを覚えつつ、そしてこのお方を信じる信仰によって、神の満ち満ちた恵みをつかんで、しっかりと前進すべきである。

第三天使のメッセージはわたしたちにとって多くのことを意味しており、真の安息日遵守は神に仕える者を神に仕えない者から区別するしるしでなければならないことに兄弟方が気づくようにとわたしは祈る。眠くまた無関心になっている人々を目覚めさせなさい。わたしたちは聖なる者であるようにと召されているので、わたしたちの信仰の特殊な特徴をわたしたちが保っているかいないかはほとんど重要ではないという印象を与えることを注意深く避けなければならない。わたしたちには、真理と義のために、過去にしていたよりももっと堅く立つという厳粛な義務がある。

神の戒めを守る人々と守らない人々の間の境界線は間違う余地なくはっきりと示されなくてはならない。わたしたちは、神との契約関係を保つのにあらゆる方法を勤勉に用いつつ意識して神をあがめなくてはならないが、それはわたしたちが神の祝福、すなわち非常に厳しく試みられねばならない民にとって本当に必要不可欠な祝福を受けることができるためである。わたしたちの信仰、わたしたちの宗教がわたしたちの生活のなかに支配力がないという印象を与えることは神を非常に辱めることである。(手紙 128, 1902年7月6日、世界総会委員会と医療伝道会議へ)

7月7日

悔い改めの実

「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわざである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は貪欲と放縦とで満ちている。」(マタイ 23:25)

ヨハネがユダヤの荒野で説教をしており、パリサイ人とサドカイ人が彼からバプテスマを受けるために来たとき、恐れを知らない説教者は彼らに向かって「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから、おまへたちはのがれられると、だれが教えたのか。だから、悔い改めにふさわしい実を結べ」と演説した(マタイ 3:7, 8)。この人々は正しい動機に動かされてヨハネのところに来たのではなかった。彼らは原則と実践において墮落していたが、それでも自分たちの真の状態に無感覚であった。自尊心と野望に満たされて、彼らは自分を高めることができ、人々に自分の影響力を強めることのできることはどのような方法であってもためらうことはなかった。それでこの人気のある若い教師の手によるバプテスマを受けることはこれらの計画をもっと成功させる助けになると、彼らは考えたのである。

彼らの動機はヨハネに隠されていなかったで、「迫ってきている神の怒りから、おまへたちはのがれられると、だれが教えたのか」という探る質問をもってヨハネは彼らに会った。彼らが自分たちの心に語りかけている神のみ声に聞き従っていたなら、悔い改めにふさわしい実をもたらすことによってその事実に対する証拠を与えていたはずであった。しかし、そのような実は見られなかった。彼らはその警告を単なる人の声として聞いたのである。彼らはヨハネが語った力と大胆さには魅了されたが、神の御霊は彼らに罪の自覚をもたらさなかったで、結果として語られた言葉は永遠の命をもたらさなかった。

キリストの御霊をまったく欠いている一方で、羨み、ねたみ、賞賛と人気への愛に支配されている、おそらくは自分の学識への自尊心で満たされ、自己の義をたてる形式主義者ほど天の王国から離れている者はいない。彼らはヨハネがまむしの子らと呼びかけた悪しき者の子らの部類に属している。彼らは最も恥ずべき不品行な者よりももっと効果的にサタンの働きに奉仕する。なぜなら後者はおのれの真の品性を隠さない。彼は自分が本当にどのような者であるかをあらわす。

改心した生涯、すなわち悔い改めにふさわしい実以外にはなにも神のご要求に合うものはない。そのような実のない信仰告白は価値がない。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1887年7月7日)

主よ、来たりませ

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

終わりは近い。そしてわたしたちはそれに直面しなければならないことのために準備しなければならない。わたしたちの生活は神のうちにキリストと共に隠されなければならない。わたしたちは聖霊の教育を必要としている。

快活であることはわたしたちの特権である。ときどきわたしは、わたしたちの兄弟の多くがどれほど盲目で誤っているかを見ると、魂が悲嘆にくれそうになる誘惑を感じた。定着しておらず、自分の位置を見失っている人々のことを考えると心が痛む。真理と義が広く行き渡ることができるように、主が不確かさの雲を取り除くために働いてくださるように。欺瞞の力がこれほど強くなるのが可能だとはとても思えない。わたしはこれらの人々を哀れに思う。しかし、彼らが他の人々に与えている印象はあまりに強く、わたしを震え上がらせる。わたしたちの前には嵐の将来がある。しかし、わたしたちには力強く勝利するお方が共におられる。

ときどきわたしは空の雲を見ると、わたしは「来たりませ、主イエスよ、早く来たりませ」と叫びたくなる。このようなときには、品性が表れる。わたしは敵の欺瞞の力が打ち破られるのを見ることを切望する。しかし、わたしたちは自分の信仰が失望に終わることを許さない。わたしが見出す唯一本物の慰めは、この争闘のかなたを見ること、そして最終的な勝利、すなわち勝利者の上に明るく反射している神の栄光を見ることである。預言は争闘の確かな結果を指し示している。そして信仰によって、わたしたちはそれを見ることができる。わたしは主がわたしに与えてくださった幻の中で目の前で展開された経験が実現されることを切望する。

神の聖霊の抑制する力が地から引き上げられつつある。わたしたちの働きはすみやかになされなければならない。わたしたちは魂を死から救うために自分たちの力を尽くしてあらゆる努力をしなければならない。天の主なる神はまもなく、決して滅ぼされることのないご自分の王国を打ち立てられる。今はわたしたちが純潔で天来の品性を発達させるべき時である。働きは終わりまで、ますます真剣さと力強さを増すようになる。わたしたちは信仰が増し加わる必要がある。わたしたちは見張りつつ、祈らなければならない。

何週間もわたしは麦束の下の荷車のように押しつぶされそうに感じた。それはわたしが自分に与えられたなすべき働きに関していさかかでも疑問があったからでも、またこのお方がわたしに課してくださった責任を避けたいと望んでいるからでもない。そうではなく、誤謬の盲目の中で歩いており、自分たちの識別力を失い、そして誤謬から真理を見分けることができない人々のために痛むのである。(手紙 226, 1906年7月8日 長年にわたり一緒に働き、南部連合総会の総理であったG・I・バトラー長老へ)

7月9日

敵に対する旗印

「敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊は敵に向かって旗印をあげられる。」(イザヤ 59:19 英語訳)

神はすべての人が自分の義務を理解し、召しに従って、自分自身の考案したとおりでなく、主の方法によって働くことを望んでおられる。神はいつもご自分の民の信頼に報いてくださる。恵みのみ座への道はいつも開かれている。神は真昼の光輝の中と同様に、彼らを囲む真夜中の闇の中でも、ご自分の民の必要をご覧になる。いつでも助けを求めて神を仰ぐことが、わたしたちの安全である。

神がわたしたちにその保護を与えてくださり、わたしたちに「あなたがたはわたしと共に働く共労者である」と仰せになるとき、もしあなたが主の道を守るならば、あなたは最大の危険のただ中であつても安全である。サタンが信仰と信頼の子を欺こうとするとき、神は良心的にご自分と調和して働いている人々のために、敵に対して旗印を掲げてくださる。このお方が掲げる旗印は、その律法である。義を行う人々には、いつも彼らを助けるためにそばにいてくださる友がいる。必要と問題と困惑の時にはいつでも、このお方は彼らの近くにおられる。彼らは誘惑されるとき、このお方は彼らの保護としてご自身を表し、「わたしの目をあなたにとめて、さすすであらう。わたしはあなたを困惑から救出し、仮屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせる」と仰せになる。

主は人が見るようにはご覧にならない。主が最も愛し、誉をお与えになる人々は、しばしば敵のあざげりや嘲笑の的である。このお方はわたしたちが世の標準に従ったり、あるいは人間の考案によって働きの成功を得るのではないという教訓を学ぶように望んでおられる。……

偽善や見せかけは神に対しては何の役にも立たない。わたしたちが手を染めることはすべて、天の知的存在者たちの面前であるかのようになされるべきである。思いにあるすべての考え、魂のすべての大望は、わたしたちが相手にしなければならぬお方に読まれている。魂が獲得しなければならぬ勝利は、外見上の見かけや人の賞賛によって計られるのではなく、善とあわれみ、またやさしい同情、そして神の律法に堅く固守していることによって計られる。……

神の民は危険のうちにいる。彼らの道には大いなる光が照り輝いているにもかかわらず、彼らは世の習慣に従っている。……

わたしたちは自分たちの色に対して忠実でいよう。「神の戒めとイエスの信仰」と記されている旗印をあげようではないか。(手紙 99, 1900年7月9日 オーストラリアのある医師へ)

神に栄光あれ

「あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」(マタイ 20:26, 27)

人間はだれ一人として、他人の賞賛を受け入れ、自分の宝は神に属していることを忘れて、自ら最高の座に着くべきではない。義に飢え渴いている人々には神の祝福が約束されているが、人の賞賛に飢え渴くことほど、侮辱的なことはない。

主が聖所の秤で、一番になろうと躍起になっている人々の行動を計られるとき、またそのような紛争を主がどのようにご覧になるかを彼らが悟るとき、彼らはこのお方の足台の下に低くひれ伏し、自分たちの取った一連の行動を恥じ入るようになる。すべての人が一番になることはできない。すべての人が主人になることはできないのである。神のみ前にへりくだって歩み、このお方を自分の主人として認めなさい。他人の中にあなた自身よりも優れた卓越さや大きな有用性の能力を認めることができないとは不幸である。

もしわたしたちが神性にあずかる者となるならば、神はわたしたちを活動の中で幸せを、そしてキリストのくびきを負うことに休息を見出すのにふさわしい者としてくださる。神がわたしたちに賜った力を正しく用い、祈り、待ち、見張り、働き、キリストのくびきを負い、日ごとに柔和で心のへりくだった者となるためにこのお方から学ぶならば、わたしたちの生涯に大きな喜びがもたらされる。

神の恵み深い賜物や祝福がなければ、わたしたちは永遠に破産である。そうであればだれ一人として、自分を賢いと思って、自分自身をほめそやすべきではない。もし彼らのタラントが自分で作り出したものであれば、自己賞賛もいくらか理にかなうであろう。しかし人には自分自身のものはない。わたしたちは自己を高めることによって真の知恵に欠けていることを暴露しないようにしよう。わたしたちはタラントをゆだねてくださったお方の足元に謙遜に身を低くしてひれ伏そう。わたしたちはこれらのタラントを用い、活用して、原資と利子とを与え主に手渡そう。
.....

神聖な委託物として、すべてのタラントは正しく用いられるべきである。神がご自分の執事となされた人々は聖書を熱心に調べるべきである。それは、彼らがその真理を他人に伝え、主が贖われた人々のために敷かれた道に彼らを導くことができるためである。教えと模範によって、わたしたちはキリストの恵みを通して神のすべての戒めに従うことができ、そしてキリストの義によって覆われることができることを他の人々に教えなければならない。……「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行う者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14 英語訳)(原稿 88, 1898年7月10日家令の譬)

7月11日

霊的な塩

「あなたがたは、地の塩である。」(マタイ 5:13)

神は聖書を信じると主張する人々にクリスチャン品性の標準、すなわち一粒の塩もその保存力を失うことなく、彼らのすべての奉仕においてキリストに似ていることを要求なさる。キリストのみかたちが常に保たれていなければならない。思いと心はすべての罪、すなわちキリストに似ていないことから清められていなければならない。

神はすべての人、すべての教会員が神の奉仕においてなすべき義務を持っておられる。このお方の民は律法の權威を人間の判断よりも高めなければならない。全存在、体、魂、霊を律法と調和させることによって、彼らは律法を確立するのである。

神はご自分の臣下が、彼らのあらゆる交わりにおいて、また彼らのあらゆる世との仕事上の取引において、無私の行為をなすための道を開かれた。彼らの親切と愛の行為によって、彼らは貪欲と利己心に反対していることを示し、そしてこの世で天の王国を代表しなければならない。自己否定によって、また自分たちが獲得できたはずの利益を犠牲にすることによって、彼らは罪を避けなければならない。そうすれば神の王国の律法にしたがって、彼らは真理をことごとくその麗しさのうちに表すことができる。

しかし、もしわたしたちの言葉や行為がキリストに似ていないならば、またもしわたしたちの抱いている精神が益になるものでなければ、あるいはわたしたちが古くて好ましくない品性の特徴を残し、どうやったら他人が不利になっても商売上最も稼ぐことができるかを研究するならば、またもし他人を助けることが自分の義務であることを考えず、自分が兄弟の展望を傷つけても破壊してもほとんど意に介さないならば、わたしたちは味を失った塩のようであり、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけなのである。わたしたちは自分のために何か得をするかもしれないが、しかし世にとってわたしたちがどんな助けとなるであろうか。

わたしたちはどのようにして、味をとどめている塩のように、品性の保存効果を持つ特質を持つことができるであろうか。わたしたちはどのようにして救いの感化力を発揮することができるであろうか。生活上のすべてのやり取りの中で、文字通り、神の率直な戒めに服従することによって、また親切で慈善心に富み寛容であることによって、また神のみ働きの必要を見てそれを緩和しようと努めることによって、またイエスのうちにあるがままの真理を表すためになされなければならない働きをなすことによってである。(手紙 79, 1901年7月11日 世界総会総理に選出されたばかりのA・G・ダニエルスへ)

比類のない愛

「わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。」(ヨハネ 17:22, 23)

ああ、何という愛、何という比類のない愛であろう。墮落した人類がこのお方と共に栄光を受けるほどまでにこのお方と密接に結び付けられるようになるとは。この地上において、彼らはこのお方のみ足の跡に従ってきた。このお方は魂のために死なれ、その魂のために労されたが、彼らもこのお方と同じように労した。そしてこのお方がご自分の者たちを要求しに来られるとき、彼らはこのお方の喜びに入り、このお方の王国において、このお方と共に食卓に着くのである。「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい。そうすれば、わたしのおる所に、わたしに仕える者もまた、おるであろう。」(ヨハネ 12:26) ……

哀れな墮落した罪人であるわたしたちがキリストと一つになり、このお方の恵みを通して精錬され、純潔にされ、栄化されて、このお方の神性にあずかる者となることができると考えることは、何とすばらしいことであろう。わたしたちは勝利し、そしてキリストと共に……座することができる。わたしたちはこのお方のかたちに同化しなければならない。このお方はわたしたちを愛し、助けてくださる。わたしたちはこのお方のみ手のうちで受ける者とならなければならない。

わたしたちにはこのお方の約束がある。わたしたちは栄光の王国における不動産証書を持っている。神の民に与えられる天の住まいに住む権利ほど、厳密に法律に従って作成され、またこれほど明瞭に署名される不動産証書はなかった。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:1-3) ……

だれでも望む者は契約の約束の下に来ることができる。わたしたちの贖いのために支払われた代価—神のひとり子の血は尊い。キリストは苦痛の鋭いテストで試されたのであった。このお方の人性は極限まで試された。このお方は人間の不法の刑罰である死刑をお受けになった。このお方は罪人の身代わり、また保証となられた。このお方はご自分の苦悩と死の結果を、ご自分の死からのよみがえりのうちに示すことができである。ヨセフの破られた墓から、次の宣布が鳴り響いた。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じて、わたしが行った義のわざを行う者は、義認され、聖化され、白くされて、練られる。彼らは信心と永遠の命を獲得したのである」。(手紙 144, 1903年7月12日 エドソン・ホワイトへ)

7月13日

祝福である働き

「兄弟たちよ。あなたがたはわたしたちの労苦と努力とを記憶していることであろう。すなわち、あなたがたのだれにも負担をかけまいと思って、日夜はたらきながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えた。」(テサロニケ第一 2:9)

パウロは、勤勉な生徒として、ガマリエルの足元に座ったが、彼はまた手仕事も学んだ。彼は教養のある天幕作りであった。ユダヤ人の間では、富裕階級も貧困階級と同様に、自分の息子や娘たちを何らかの有用な仕事のために訓練することが慣わしであった。こうして逆境が訪れても、彼らが他人に依存せず、自分たちの必要を満たすだけの教育された能力を持つことができるためであった。彼らは文学の分野において教えを受けたとしても、何らかの手仕事のためにも訓練を受けなければならなかった。これらは彼らの教育の不可欠な部分だと考えられていた。

パウロとアクラの証は彼らの商業によれば、彼らは天幕作りであったということである。彼らは福音を宣べ伝えていた一方で、パウロとその仲間自分たちの商売では天幕作りとして働き、そうすることによって、彼らの聴衆にもっと徹底的なキリストの知識を伝えることができた。彼らは働いて、生活費を得ることができた。……

コリントで彼[パウロ]はアクラやプリスキラと共に生活した働いて、真理について彼らにもっと完全な教えをほどこした。偉大な使徒は働くことを恥ともせず、恐れもしなかった。そして彼はこの主題を、伝道における自分の働きを低めるものとしては決して扱わなかった。……

何もしない男女を、個人的な贈り物や教会の資金で援助する習慣は、彼らに罪深い習慣を奨励するものであり、こうしたことは良心的に避けなければならない。すべての男や女、子供は実際的で有用な仕事をなすために教育を受けるべきである。すべての人が何らかの手仕事を学ぶべきである。それが天幕作りかもしれないし、また他の分野の仕事かもしれないが、すべての人は自分の肢体を何らかの目的を持って用いることを教育されるべきであって、神は勤勉な習慣をつけるために自ら教育するすべての人の適性を喜んで増し加えようと待っておられる。

もし人が肉体的に健康で財産もあり、自分自身の生活費のために仕事をする必要がないとしても、彼は神の大目的と働きが前進するための資金を得るために労働すべきである。彼は「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」るべきである(ローマ 12:11)。神はこの面において、他人に及ばず自分の感化力を守るすべての人を祝福してくださる。(原稿 93, 1899年7月13日)

完全な信仰

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。」(箴言 3:5)

神は必要なときのいと近き助けであられる。もしあなたがこのお方に自分の信頼を置くならば、このお方はご自分のいつくしみ深さをあなたの前に通らせてくださる。このお方はその勧告によってあなたを導いてくださる。このお方の聖霊、このお方のみ摂理、このお方のみ言葉の教え—これらはみなあなたを教え、あなたを主の道に導く媒体である。神のあなたに対する約束は「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」である(ヘブル 13:5)。であるから、あなたは謙遜に、しかし確固たる確信をもって「この神は世々限りなくわが神である」と言うことができる。

わたしはあなたに次のように言うよう命じられた。自己に信頼することなく、神に信頼しなさい。神を信じるわたしたちの信仰—これが天の見ている中でわたしたちが裁かれる秤である。熱心になって神の働きをすることを求めなさい。常に真の信心の単純さを保ちなさい。「わたしを失う者は自分の命をそこなう」(箴言 8:36)。聖書を研究しなさい。なぜなら、これほど神を信じるあなたの信仰、もしくはこのお方の真理を信じるあなたの信念を固く据えるものは、他にないからである。もしあなたに神を信じる信仰があるならば、あなたは勝利者とならずにはいられない。

試練や失望について語ってはならない。これらのものから目を離してキリストを見なさい。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)。あなたはこのお方の血で買われたものである。あなたが勝利者になれるようにとご自分の命を捧げてくださったお方を失望させてはならない。このお方は、あなたやわたしが誘惑され得るすべての点において誘惑された。そして抵抗するために、このお方は一晩中、祈りとご自分のみ父との交わりのうちに過ごされたのである。キリストは魂一人びとりにとって完全な信仰と服従の生涯を送り、完全な品性を持つことを可能とするまでは、この世をお去りにならなかった。

キリストはあなたがキリストの生活を実践することを可能としてくださった。あなたには聖書の中にこのお方の尊いみ言葉がある。それらを信じなさい。その教えを実行しなさい。決して神のみ言葉を疑ってはならない。このみ言葉はもしあなたの生活に受け入れられるならば、あなたを精錬し、あなたを聖化して、あなたの有用性を増してくださる。助けを必要としている人々を助け、励ましを必要としている人に励ましの言葉を語るのはあなたの特権である。あなたは神の栄光の光を世に示すべきであることを心に留めていなさい。(手紙 206, 1908年7月14日 個人的な証)

7月15日

愚かな狂信

「ユダヤ人の作り話や、真理からそれていった人々の定めなどに、氣をとられることがないようにさせなさい。」(テトス 1:14)

命があるものは何でも、虫でさえも、それがどんなに悩まし、苦しめるものであっても殺すべきではないと言っている人の教えに関して尋ねた何通かの手紙がわたしのところに届いた。神が人々に伝えるようにと自分にこのメッセージを与えてくださったと主張することがいったい可能であろうか。主は人類のだれ一人にもこのようなメッセージをお与えになったことはない。

人々は何が真理であるかに関して啓発されるべきである。こうして起こる付随的な事柄は、この終わりの時代のための真理に比べると草や木、またはわらのようなものである。

無駄な話が重要な真理として持ち込まれ、そしてある人々によってそれが実際のテストとして打ち立てられる。食用に動物を殺す残酷さについてはメッセージが担われてきた。これらのメッセージは真実であるが、これらからある人々はどんな虫も殺すべきではないという考えをいだいた。こうして論争がおり、思いは現代の真理からそらされてきたのである。

神はわたしたちの平安や休息を破壊する虫を殺すことが罪であるとはだれにも教えてこれなかった。このお方のすべての教えの中で、キリストはこのような性質のメッセージをお与えにはならなかった。そしてこのお方の弟子たちはこのお方が自分たちにお命じになったことだけを教えるべきである。

わたしはわが兄弟姉妹に申し上げたい。「神のみ言葉の中に見出される教えに近く親しんでいなさい。聖書の豊かな真理を熟考しなさい。こうすることによってのみ、あなたはキリストと一つになることができる。あなたには虫の殺生に関して論争をしている時間はない。イエスはあなたにこの重荷を負わせてはおられない。「わらと麦とをくらべることができようか」(エレミヤ 23:28)。キリストの特性を研究し、熱心に追い求めるべきである。それはすべての信者がこのお方のうちにあつて完全になり、このお方のご品性の美しさを表すことができるためである。わたしたちには、空虚でおろかなおしゃべりをしている時間はない。この時代のための厳粛で神聖な真理を熟考しようではないか。……

神は男女に理にかなって偏見なく考えることを望んでおられる。彼らはより高くさらに高いところまで上つていき、より広くさらに広い地平線を見下ろすべきである。イエスを眺めつつ、彼らはこのお方のみ姿に変えられなければならない。彼らは深くとこしえの天の真理を探究するために自分たちの時間を費やさなければならない。(手紙 82, 1901年7月15日「愛する兄弟姉妹方」へ)

命のために食する

「わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。……それは、これを得る者の命であり、またその全身を健やかにするからである。」(箴言 4:20-22)

家庭での間違った教育のゆえに、誤った意見が生まれ、これが子供からその子供へと伝えられて、放縦の習慣が助長され、何千もの人々の健康を損なう結果となってきた。わたしたちの治療院は多くの人々に、命と健康の事柄に関して正しい教育がなされる場所となるべきである。だれ一人として食欲の放縦によって自ら病気になるように、食習慣が注意深く守られるべきである。主はご自分の愛するひとり子の犠牲によって買われたご自分の民が、軽率に生活の悪習慣によって自らを害するとき、お喜びにならない。わたしたちはこの世を通るとき、教えられるすべての人に、いかにして自己放縦の習慣を避け、それに勝利するかを教えようと努めるべきである。

もしわたしたちがイエス・キリストを信じる者であれば、いかに頭脳をはっきりと活動的に保つかに関して知的になるよう努力すべきである。それは、わたしたちの感化力がわずかでも失われることがないためである。わたしたちは完全な奉仕を捧げることができる状態に体の組織を保つことによって、神と共に働く共労者となるよう努めるべきである。実に消化器官の虐待という不健康な方針に、全存在の幸福が大いに依存している。胃がバランスを崩されると、思いもバランスを崩す。そして脳神経の力は弱められる。そこですべての魂にとって、健やかな生涯を送る科学を学び、食事の問題を心に留め、そしてこのことを良心的に取り扱うことが宗教的な義務となるのである。

使徒パウロは、わたしたちは自分自身のものではなく、代価で買い取られたものであるとわたしたちに宣言している。もしわたしたちが自分のためにその命を与えて下さったお方を真に愛するならば、わたしたちは病気を避けるという厳粛な義務の下にいることを感じるべきである。……

ゆがんだ食欲にふけるという誘惑の力は、荒野で長い断食に苦しめられたキリストのお苦しみによってのみ測ることができる。キリストは救いの計画を実行するために、墮落が始まったちょうどそのところから、贖いの働きをお始めにならなければならなかった。アダムは食欲の点で屈した。キリストはまさに墮落が始まったところから贖いの働きに取り掛かれた。これはわたしたちの経験においても同様である。わたしたちはまさに墮落の働きが非常に鋭く感じられるところから、改革の働きをはじめなければならない。」(手紙 218, 1908年7月16日 世界総会総理へ)

7月17日

このお方のような生涯

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

魂のうちにある真理は、慎重な生活のうちに見られるようになる。ふるまいの軽率さや、過度な馴れなれしさは存在しない。もし神の子供であると主張するすべての人が、低俗な考えや行き過ぎた配慮のない親切と、愛の精神を心に抱き、魂を救うことを求めて真理を広めるために神が賜った自分の能力を捧げるならば、何という明るく着実な光が世に輝き出ることであろう。

もしキリストだけがその比類のない恵みによって魂をお救いになることができると、わたしたちが信じるならば、一人ひとりほどれほど熱心にキリストを掲げ、キリストのように多く祈り、生きた信仰によってこのお方のみ名のうちに自分が受けられるように求め、また魂をキリストに勝ち取るために喜んで使い尽くし、また使い尽くされることを求めることであろう。クリスチャンであると告白する人はみな、このお方の御霊とこのお方の恵みに対して自分の心の戸を開こう。そのとき、キリストの平安が彼らの心を支配し、彼らの品性には不和も、紛争も、対抗も、互いにかみつき、むさぼることも、最高位を求めることもなくなる。キリストの生涯を送るために大いに熱心な努力が払われるようになる。わたしたちはこのお方の憐れみの精神を表さなければならない。そして、だれかにわたしたちの悪を行う例に倣う機会を与えるようなことがあってはならない。

イエスは礼儀正しく、寛容であられた。このお方はすべてのご自分のみ父の戒めに対して絶対的に服従なやり、都合やどんなご自分の利害に問うこともされなかった。わたしたちにとって神が語られたということを知るだけで十分である。そしてわたしたちがこのお方のみ言葉のうちに表されたこのお方のみ旨を知るとき、わたしたちは従わなければならない。

世の贖い主はわたしたちに語っておられる。わたしたちはこのお方が次のように仰せになるのに耳を傾けよう。「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、律法を行う者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14 英語訳)。であるから、神のみ言葉のうちにそのご要求を認めながら従わず、神のご要求を自分たちがなごりにし、故意に軽視することを言い訳する人々は、自分たちの一連の行動によって、彼らが従順を条件としている祝福の約束のうちに含まれていないことを証するのである。彼らは命の木にあずかる権利のある者ではない。神の律法の故意の違反者たちに対して、イエスは次のように仰せになっている。「あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない。悪事を働く者どもよ、みんな行ってしまえ」(ルカ 13:27)。(原稿 1885 年 7 月 17 日 「献身していない働き人の感化力」)

奉仕のために委託されたタラント

「わたしたちも数は多いが、キリストにあって一つのからだであり、また各自は互に肢体だからである。このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っている」(ローマ12:5, 6)

神はすべての人にタラントをゆだねてくださった。すべての人に、このお方はその働きを与えてこられた。このお方のぶどう畑には怠け者は存在し得ない。各自に主人のためになすべき最も真剣で神聖で厳粛な働きがある。すべての人になすべき何らかの働きがゆだねられており、そしてだれ一人として免除されてはいない。最後の清算の日が来るとき、主はご自分の僕たちと清算をなさる。羊飼いのかしらは裁き主であられる。そして、信仰によって義認され、その行いによって裁かれるご自分の僕たちと清算をなさる手順を規定すべき偉大な原則を説明なさる。信仰は愛によって働き、魂が主のための宮となるために道徳的な汚れから清めるのである。

委託されるタラントは、教育や知性の明晰さにおいて他の人類同胞にまさって高められ恩寵を受けたほんのわずかな人々のためにとっておかれているのではない。タラントは主の家族の最も低く人目につかない人から最も高い信任の地位にいる人まで一人ひとりに与えられているものである。委託された賜物はわたしたちの様々な能力に応じており、すべての人は神の栄光のためにこれらのタラントを用いなければならない。彼は自分の有用性を増し加えなければならない。なぜなら、それらを用いることによって、彼はますますより良く主の財産で取引を行うのに適した者となり、また取引することによって蓄積するのに適した者となるからである。真理の光とあらゆる霊的な優位性は主の賜物である。それらは正しく認識され、また思いと品性に感化を与えるべきである。わたしたちは委託された賜物に応じて、それ相応の利子を神にお返ししなければならない。

わたしたちは恵みによってこのお方の僕として選ばれた。僕とは働き人、心労と重荷と責任を引き受ける人を意味する。……わたしたちは自分たちの扱っている財産が自分のものではないということを認識しなければならない。それは、わたしたちの主の投資に利子をつけてお返しすることができるように、その財産を管理する賢い執事として、わたしたちが投資し、増し加えるために委託された主人の資本である。わたしたちは主の財産をひそかに貯めこんで、それに手をつけずに何もしないではいられない。怠惰な僕は自分の1ポンドをそのようにして、自分の魂を失ったのであった。すべての人にはなすべき厳粛な働きがあるのであり、自分の時間を浪費することはできない。彼は神のご目的における完全な働き人となるために、自分の特権と機会に応じて、品性にも能力にも向上しなければならない。(原稿 81, 1893年7月18日)

7月19日

いと近き助け

「主は恵み深く、なやみの日の要害である。彼はご自分を避け所とする者を知っておられる。」(ナホム 1:7)

もしわたしたちがただ信じて神に信頼しさえすれば、わたしたちにはみ言葉の中に豊かな約束がある。わたしたちは自分自身の貧弱な人間の努力に信頼し、神に信頼をおかない危険がある。終末時代の神の働きのこの大いなる準備において、何らかの役割を果たすすべての人は、神の御許に近く来るべきである。神がご自分のための特別な任務をおさせになるためにご自分の働き人たちを遣わされる時、もし彼らが神と一つになるならば、このお方はご自身が彼らと一つになられることを誓われた。しかしもし彼らが神から離れて身を引き、この働きを自分自身の力でなそうと試みるなら、彼らは一步ごとに困難と失望に出会うようになる。わたしたちが主のために働くとき、このお方がわたしたちを助け、共に働くために、わたしたちの右側にいて下さるという約束がここにある。

わたしたちのうちだれかが、何かに成功するときにそれをいくらかでも自分の功績とすることは、世の中で最大の愚かさとなる。わたしたちが神と共に謙遜に歩めば歩むほど、このお方はわたしたちを助けるためにますますご自身をわたしたちに表して下さるのである。主は神の助けをお与えにならないでは、ご自分のために働きをなすご自分の僕たちをサタンと悪天使たちの反対がある中に送り出されることは決して計画なさらない。わたしたちが働きにおいて、より大きな成功を収めない理由は、わたしたちが神の与えて下さる助けに寄り頼むよりは、自分自身の努力に頼るからである。自分の弱さ、自分の無価値さを感じ、それから神がわたしたちのために備えて下さった助けをわがものと主張することはわたしたちの特権である。わたしたちは嘆きの時にみ言葉を信じることができる。そしてわたしたちが魂の重荷を自分の上に感じるときに、「主よ、あなたは約束してくださいました。わたしはあなたのみ言葉を信じます」と言うことができる。

わたしたちはちょうど子供が地上の親のところに行くように、わたしたちの天のみ父の許へ行くことを学ばなければならない。このお方は「あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか」と仰せになる(マタイ 7:9-11)。……

神の働き人の一人ひとりが自分の力をその能力の最大限にまで培うべきであるが、それでも彼はこれらの力に信頼すべきではない。あなたが自らなれるすべてのものになりなさい。その上であとは神に委ねなさい。(原稿 1886年7月19日「自己に勝利する」)

力のために食する

「あなたの王は自主の子であって、その君たちが酔うためではなく、力を得るために、適当な時にごちそうを食べる国よ、あなたはさいわいだ。」(伝道の書 10:17)

健康の法則には従うべきである。消化器官を酷使しないようにすることは重要である。常に胃を働かせている人が多くいる。胃にはその力を補充する機会がなく、その結果は間違いなく消化器官の混乱である。

食間に食べてはならない。そして、少なくとも食間は五時間を経過させるべきである。不消化は、消化器官が前の食事を処理する時間をとる前に、胃の中に食べ物を取り入れる結果である。……

3回の食事で十分であって、2回ならば3回よりもなお良い。過去30年間、わたしは1日2食だけを食してきた。人々が不活発さに苦しんでいるが、これはしばしば食べ過ぎや、不規則に食することによって引き起こされている。消化不良は落胆をもたらし、この病気に苦しんでいる人は、クリスチャンだと公言しているかもしれないが、キリストに似ていない態度で行動するのである。

ある人々は、食べようという気持ちに従えば十分であると主張する。しかし1日に7、8回食するのが習慣になる人もあるが、これは最善ではない。このような習慣によって、消化器官が酷使されるので、病気が作りだされる。

健康改革を実行しなさい。そして正しい道からそれられるのを拒否しなさい。弱ることをせず、自分の意志力によってあなたの食欲を真の目的に服させなさい。……

神はアダムにエデンの園を手入れし、保つようにとお任せになり、種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とについて次のように言われた。「あなたがたの食物となるであろう」(創世記 1:29; 3:18 参照)。後になって、墮落の結果の一つとして、肉食が許された。洪水の前には、動物の肉の使用は食糧のために備えられていなかった。……

肉なしに6ヶ月を過ごし、そして何か良い方向に変化がないかどうかを見てみなさい。わたしはこれを直ちに行うようにとお願いする。あなたの想像を聖化していただきなさい。あなたの思いと良心を目覚めさせ、あなたの全存在を奮起していただきなさい。自分自身にあまりに同情しないように自ら用心しなさい。雄々しくなりなさい。ゆがんだ食欲に打ち勝つ決心をしなさい。(手紙 208, 1905年7月20日 医者とその妻へ)

7月21日

あなたの光を輝かせなさい

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒行伝 1:8)

わたしの心は、[ミシガン州のウィリスで] 改宗者の中に、イエスの愛によってやわらげられ、征服された心をもって、自分たちの魂のために神がなされる良きわざを認める、これほど多くの若い男女がいることを見て喜んだ。それは実に尊いひと時であった。「人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである」(ローマ 10:10)。……

これらの新しく信仰を持つに至った人々が神に対する自分たちの義務を自覚することは重要不可欠である。彼らが自分たちと交わる人々に聖化させる感化力を及ぼすことができるために、神は真理の知識へと彼らを招き、そして彼らの心をご自分の聖なる平安で満たしてくださった。「あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである」(イザヤ 43:10)。ご自分の救いを世に知らせるために、神は一人ひとりに働きをお委ねになった。

真の宗教においては、利己的なものや排他的なものは何一つない。キリストの福音は普及力があり、障害をものともしない。それは地の塩、ふくらませるパン種、また闇に輝く光として説明されている。神の恩寵や愛を持ち続け、このお方との交わりを楽しみながら、なおかつキリストがそのために死なれ、誤謬と闇の中においてその罪のうちに滅びつつある魂に対して責任を感じないということは不可能である。もしキリストに従うと公言する人々が世で光として輝くことをなおざりにするなら、生命力は彼らを去り、彼らは冷たくキリストのない者になってしまう。彼らは無関心という呪文にかかる。それは死んだような魂の停滞であり、彼らを生きたイエスの代表者とする代わりに死の体にする。

すべての人が十字架を掲げなければならない。そして、謙遜に、柔和に、また思いのへりくだりのうちに、神が賜った自分の義務を引き受け、助けと光を必要としている自分の周囲の人々のために個人的な努力を払わなければならない。これらの義務を引き受ける人々はみな、豊かで多岐にわたった経験を持ち、彼らの心は熱情に燃えるようになる。そして彼らは震えおののいて自分自身の救いの達成に努める新たな辛抱強い努力をなすよう強められ鼓舞されるのである。なぜなら、彼らのうちに働きかけて、神の喜ばれる願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であられるからである。(ビュー・アンド・ワールド 1891年7月21日)

開かれた戸

「しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう。」(ヨブ 23:10)

ごくわずかな前進のためにわたしたちが努力を払わなければならないこと、また闇がわたしたちの道を覆っていることこそ、しばしばわたしたちが正しい道にいるという最上の証拠となる。信仰の最高の高さへは、ただ闇と雲を通してのみ到達できるというのがわたしのこれまでの経験である。……

わたしたちが疑いや恐れを抱いていることは安全ではない。なぜなら、それらは眺め、語ることによって助長されるからである。わたしは、沈みかけた弟子たちが嵐の湖上でしたように、自分の手をのばして、キリストの手をつかみたいと思う。わたしは偉大な白いみ座の前に立ち、実際にわたしがしたこと、すなわち書物にことごとく記されたことについて答弁をするために呼ばれるとき、魂がそこに立って、わたしが彼らに警告したことや、わたしが彼らに世の罪を取り除く神の小羊を見るようにと嘆願したことを証するのを見ることができるよう、自分の仕事を忠実になしたいと願う。

ああ、そのとき、わたしという器を通して救われた魂がいるであろうか。キリストを通して、わたしは人々の前に戸を開いておきたい。「あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた」(黙示録 3:8)。

神の都はそのことごとく麗しい魅力をもって、「来たりませ」と言っている。もしわたしたちが聖なる生活と、嘆願と、祈りと、警告によって、罪人に逃れの道を指し示し、彼らを受け入れるために開かれている天の門へ彼らの注意をしっかりと留めさせるならば、またもし信仰によって彼らが命への入口が開かれた戸であるということを知るならば、すべてを得ることができる。地上の魅力は失せ去り、天の魅力が魂を勝ち取り、魅了するのである。……

わたしたちがクリスチャン品性を完成させるのを妨げている障害は、わたしたち自身の中にある。イエスはそれらを取り除くことができる。このお方がわたしたちに担うようにと要求なさる十字架は、それが消耗する以上の力をわたしたちのうちに創造し、わたしたちの最も重い重荷を取り除いてキリストの重荷を負わせるが、それは軽いのである。義務を果たすにおいてわたしたちは争闘や試練に遭わなければならない。キリストはわたしたちを栄光と徳へと招いてこられた。このお方がご自分の苦悩と死を通して、わたしたちを導くために備えてくださった生涯は、わたしたちが一度もそれを手放したことがなかったならば、決してわたしたちに痛みや悲しみの犠牲を払わせるようなことはなかったのである。キリストに従ってわたしたちが払う一つ一つの自己否定や一つ一つの犠牲は、迷子の羊が囲いに帰るために必要な一步一步なのである。(手紙 7, 1877年 7月 22日 エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

7月23日

あなたは自分の主を知っていますか

「神の子を信じる者は、自分のうちにこのあかしを持っている。神を信じない者は、神を偽り者とする。神が御子についてあかしせられたそのあかしを、信じていないからである。……御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。」(ヨハネ第一 5:10-12)

わたしたちはキリストが世の救い主だという意味ではこのお方を知っているが、それはこれ以上の意味をもつ。わたしたちはキリスト・イエスのうちに個人的な知識と経験を持たなければならない。このお方がわたしたちにとってどういうお方であり、またわたしたちがこのお方にとってどういう者であるのかという経験に基づく知識を持たなければならないのである。これはすべての人が必要としている経験である。しかし、わたしがそれをだれかあなた方のために持つことはできないし、またあなた方がわたしのために持つこともできない。わたしたちのためになされるべき働きは、神の聖霊が人間の思いと心に表してくださることによってなされねばならない。心は精錬され、聖化されなければならない。

わたしはあなた方のだれにもこう言う必要はない。なぜなら、あなた方はそれを知っているからである。わたしたちのうちだれ一人も自分がどこにいるかについて疑いを感じる必要はないし、また「神のみ前に自分がどこに立っているかを知りたい」と考える必要もない。かえって生きた信仰によって、わたしたちは神のうちに自己を沈ませなければならない。そしてこうするとき、このお方の命がわたしたちの上に輝く。わたしたちの存在の一片でさえも無力で冷たい状態である必要はないのである。わたしたちにとって問題は何か。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」。それは彼に与えられる。これに関しては、「もし」とか「そうすれば」はない。「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい」(ヤコブ 1:5, 6)。

あなたは知恵と力と能力を神に祈り求めなさい。そしてあなたにはそれらがなくてはならないと感じなさい。しかしおそらく、祈った直後に、あたかもサタンの地獄のような影があなたの行く道をさえぎって投げかけられたかのように見え、あなたはその先に何も見ないであろう。これは何であろうか。それは悪魔があなたの信仰を曇らせたいからである。……しかしあなたがそうする必要はない。感情がわたしたちの標準なのであろうか、あるいは生ける神のみ言葉が標準であるべきであらうか。わたしたちは自分の信仰を雲のうちに沈ませてしまうのであろうか。それはサタンがわたしたちに望んでいることである。……

ときどきその雲がわたしの上にとどまっていたことがあったが、わたしは同時に神もそこにおられることを知っていた。……「疑わないで、信仰をもって願い求めなさい」。悪魔のほめかきをただの一つも入らせてはならない。「疑わないで」いなければならない。「疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている」(6節)。主はもしわたしたちが主に対する信頼を示さえすれば、わたしたちのために大いなることをして下さる。(原稿 93 a, 1899年7月23日)

すべての水のほとりにまく

「行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。……財布の中に金、銀または錢を入れて行くな。旅行のための袋も、二枚の下着も、くつも、つえも持って行くな。働き人がその食物を得るのは当然である。」(マタイ 10:7-10)

異邦人への偉大な使徒パウロは、天幕作りの手仕事を学んだ。天幕作りには上流分野から下流分野までであったが、パウロは上流分野を学んでおり、また状況によって必要に迫られれば、通常分野で働くこともできた。……

海沿いのギリシヤ人たちは猛烈な貿易商たちであった。彼らは抜け目なく取引を行う教育を自ら受けた。そして獲得することが信心であり、手段が公正であろうと汚かろうと利益を得る能力が誉を受けるべき理由であると信じるようになっていた。パウロは彼らの習慣を知っていたので、彼は自分とその仲間たちが福音によって生活を支えてもらうために宣教していると言わせる機会を彼らに与えなかった。

彼がこの方法によって生活を支えられることは、働き人のまったく正当な権利であったが(なぜなら、「働き人がその報酬を受けるのは当然である」からである)、それでも彼はもし彼が(そうして)いたなら、自分の労働仲間や自分が宣教する人々に及ぼす感化力が最上のものとはならないとわかっていた。パウロはもし彼が福音を宣教することによって生活をしてきたなら、[そう]することによって利己的な動機を疑われるかもしれない。……彼は自分がどれほど有益な労働に携わることを喜んでいるかを示さなければならなかった。彼はみ言葉を宣教する人々に利己的な動機が押し付けられることによって、福音の働きを非難するいかなる口実も与えたくなかった。彼は必ず賢いギリシヤ人たちに神の僕の感化力を損なういかなる機会も与えなかった。

パウロは、もし自分がその隣人やもしくは自分の神よりも自分自身を愛し、福音の原則に従う代わりにギリシヤ人の慣習に従って、自分の仕事に関して利益のために抜け目なく取引していると考えよう理由を一つでも与えてしまうならば、心と魂と力と思いを尽くして神を愛し、そして隣人を自分自身のように愛することを要求する律法をいかにして教えることができるであろうかと論じている。彼は、もし自分が彼らから得られるものを全部受けているなら、いかにして人々をキリストに導くことができるであろうか。パウロは鋭く批判的で悪事を平気で働くこれらの金銭貿易商たちに、神の僕が自分たちと同じようにずる賢く不正直な方法に従って働いていると思わせるような機会を与えないと決心した。(原稿 97, 1899年 7月24日 「牧師と医者への働き」)

7月25日

あなたは岩の上に築いているであろうか

「なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。」(コリント第一 3:11)

民がキリストの言葉を聞きながら丘に座しているとき、彼らは山あいの小川が通って海へと下る谷や山峽を見ることができた。夏にはこれらの流れは、しばしばただ涸れたほこりっぽい水路を残すのみで、完全に消えてしまう。しかし、冬の嵐が丘に激しく打ちつけると、川は荒々しく、猛烈な激流となって、時には谷にあふれ、その抵抗することのできない洪水に波にすべてのものをさらっていつてしまう。そのときしばしば農民の立てた草原の小屋は一見危険の及ばないところにあるように見えたが、流されてしまうのであった。しかし高い丘の上のある家は岩の上に建てられていた。ある地域では、住まいは完全に岩の上に建てられた。そしてそれらの多くは、何千年ものあいだ嵐に耐えてきたのであった。これらの家は苦労と大変な困難をもって建てられた。それらには容易に近づくことができず、それらの位置は草原ほど近づくのは容易でないように見えた。しかしそれらは岩を土台としており、そして風や洪水や嵐がそれらに打ちつけても無駄であった。

キリストのみ言葉を聞いて従う人々は、岩の上に建てているのである。そして、嵐が来るときに、彼らの家は崩壊させられることがない。彼らはキリスト・イエスを信じる信仰によって永遠の命を獲得するのである。このお方のみ言葉を聞いても行わない人々は、砂の上の不確かな基礎の上に建てているのであって、彼らは災害に遭うのである。

アダムとエバが最初に神が自分たちに語られたみ言葉に注意を払っていたならば、彼らは自分たちの最初の状態から墮落することはなかった。わたしたちの救い主は、アダムに示されたものより強く激しいかたちの誘惑にあわれた。そしてこのお方の聖なる武器はすべての人の手に届くもの一神のみ言葉であった。サタンが荒野でキリストのところへ来て、石をパンに変えることによって空腹を満たし、こうしてご自分が神のみ子であることを証明しなさいとこのお方に言ったとき、キリストは「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある」とお答えになった。(マタイ 4:4) ……

わたしたちはあらゆる種類の偽りの教理にあうことであろう。そしてもしわたしたちがキリストの仰せになったことを良く知り、このお方の教えに従っていなければ、わたしたちは迷わされてしまうのである。(原稿 27, 1886年7月25日「岩の上に建てる」)

あなたの信仰にしたがって

「そこで、イエスは彼らの目にさわって言われた、『あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように』。」(マタイ 9:29)

信仰を語り、疑いを語らないことは、神の子としてわたしたちの義務である。わたしたちは主にあって希望に満ち、快活でいる必要がある。状況の暗い面を見ないで、上を見上げ、わたしたちをその罪から救うために神が世に遣わされたお方を信じようではないか。キリストはわたしたちの心に信仰と真理を信じる信念を吹き込むことによってわたしたちの救いを成し遂げられる。真理は自由を得させる。そして御子が自由を得させる人々は、本当に自由なのである。わたしたちは、このお方が真心からご自分に仕えるすべての魂を受け入れて下さるという保証に対してつねに信頼を増し加え、それを表すことによって神に誉れを帰すことを求めよう。

わたしたちは主の小さな子供なのであって、このお方によって導かれ、支えられなくてはならない。もしわたしたちがイエスの親切と忍耐とやさしさから教訓を学ぶならば、わたしたちは交わるすべての人々にとって祝福となる。主はわたしたちがご自分の約束を慰めとし、そしてご自分を今よりはるかにもっとほめ讃えるように望んでおられる。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」(詩篇 50:23)。わたしたちは神のなされた驚くべきへりくだりと人類への愛に対する神への感謝をいかに表現するかを学ぼう。

神のひとり子は天の宮廷を去って、その恵み深い憐れみを拒んだ恩知らずの人々と共に生きるために、わたしたちの世界へ来られることに同意なされた。このお方は貧しい生活を送られることを、また苦しみと誘惑に耐えられることに同意なされた。このお方は悲しみの人となり、病をお知りになった。そしてみ言葉は「顔をおおって忌みきらわれる者のように、…われわれも彼を尊ばなかった」と宣言している(イザヤ 53:3)。このお方自身の弟子たちについては、ペテロはこのお方を拒み、ユダはこのお方を裏切った。このお方が祝福するために来られた民は、このお方を拒んだ。彼らはこのお方に恥辱を負わせ、言い表すことのできない苦しみにあわせた。彼らはこのお方の頭にいばらの冠を載せ、それがこのお方の聖なるこめかみを突き刺した。彼らはむちをもってこのお方を打ちたたき、それからこのお方を十字架に釘づけた。しかしこれらすべての中でも、このお方の唇から一言もつぶやきの言葉が漏れなかった。……

キリストはご自分を信じる人々にもれなく永遠の義を与える権利を獲得なさるために、これらすべての苦しみと耐えられた。ああ、わたしはこのことを考えるとき、わたしの唇から何のつぶやきももれてはならないと感じる。……

わたしたちが困難なことがあるとき、わたしたちの救いのために、宇宙の神がどれほどの犠牲を払われたかを考えようではないか。(手紙 232, 1908年7月26日 南部の働き人、M・ハレ夫妻へ)

7月27日

小さい人間—大きな主題

「人はどうして荒野の岩から流れるレバノンの雪から離れようか。また他のところから来る冷たい流れの水をどうして忘れようか。」(エレミヤ 18:14 英語訳)

わたしたちは谷のごった川から飲もうとは思わない。わたしたちは不信心の墮落した詭弁を望まない。多くの者があまりにもすぐに疑いと疑問に屈するために、不信心が大胆になっている。神はわたしたちが神のみ座の下から流れる清い川から飲むことができるように助けてくださる。わたしたちは飲むことができるし、また飲み続けることができる。そして、もしあなたが知識に渴いているなら、ここにはそれが豊かにあるのである。……

多くの人は自分が不信心者の著者の文章を理解するのにすばらしく賢いと考えているが、彼らは自分たちが砂の上の基礎に建てていることを見出すようになる。彼らは堅固な岩の上に建てていない。迫害の嵐や試練の嵐が来て、基礎を一掃してしまう。そのとき彼らには立つべきところがない。わたしたちは自分の魂を永遠の岩にしっかりと固定させたいのである。……

[アルフレッド・S・] ハチンス兄弟は、かつてヴァーモントへと出かけ、一人の弁護士に出会った。「あの」とその弁護士は言った。「わたしはあなたがセブンスデー・アドベンチストだと理解しています」。「はい」。「まあ、あなたは小さい人間に過ぎませんよ」と彼は言った。「はい、わたしたちはそれを存じています」とハチンス兄弟は言った。「しかし、わたしたちは大きな主題を取り扱っています。これらの大きな主題を研究することによって、わたしたちは人々の前に真理を示そうとしているのです。人を救いに賢くする大きな主題こそ、わたしたちの望むものである。

あなたが自分は大きな人であって、不信心者の著作物を理解し、そこから尊いものをすべて拾い出し、また不道徳なものにはすべてさわらずにいることができるくらい大きい者だと考え始めるまさにそのとき、あなたは自分がその本に書かれていることより賢いと考えていることになる。……悪魔はあなたのすぐ傍らに、そして悪天使たちもそこにいる。悪魔はあなたよりもずっとはるかに賢く、あなたは彼が何をほのめかしているかを知ることができない。彼は狡猾に自分の思いをこれらの作者の思想に織り込み、その中にある誤謬を見極めることを不可能にするのである。……

もしあなたが神の御目に賢い者だとみなされたいのであれば、まっすぐカルバリーの十字架に来て、そこからもたらされる靈感を得なさい。そのとき、あなたの名は岩の上に自分の家を建てる賢い者として記される。(原稿 8 b, 1891年7月27日 「教師に語って」)

忠実さの報い

「あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意しなさい。」(ルカ 21:34)

親愛なるクリスチャンの友よ、立ち止まって考えなさい。あなたはあなたの主の金銭で取引をしているのである。そしてあなたはそれを何に用いているであろうか。あなたは自分の思いを仕事上の取引とこの世の生涯のわずらいに没頭させてしまうこともできる。しかし、あなたはこれらのものをかの世に携えていくことはできない。このような種類の教育は、そこでは役に立たない。では、あなたのタラントをキリストの王国を建てるために用いてはどうであろうか。あなたを仕事で成功させた機転と技能とエネルギーを神の奉仕に捧げてはどうであろうか。この世の働きは減ばされる。あなたの思考能力を幾分でも神の働きのために用い、働きの永久に残るところに建て、損失を被らないほうが良くはないだろうか。

あなたがたが絶えず心の重荷とすべきことは、「わたしはキリストがそのために死なれた魂を救うために何ができるか」である。わたしの周りには至るところに、悪のうちに横たわり、だれかがその救いのために働いてくれなければ滅びてしまうに違いない尊い魂がいる。わたしはどのようにしたらこれらのさ迷っている人々に最善の方法で手を伸べて、彼らを栄光に満ちた神の都へ連れて行くことができるであろうか。そして、「ここにわたしと主がわたしに賜った子らがいます」と言って、彼らを見座の前に示すことができるであろうか。

ある人々は、わたしにはこのような種類の仕事の経験がありません、と言って言い訳するかもしれない。わたしはこの世のことにしか自分の能力を用いてきたことがありません、と。自分の時間と力を世俗的な利益に捧げ続けるのか、もしくはそれらを神の働きに用いるのかを決めるのはあなたである。わたしたちはだれひとりもこの奉仕に強制されてはいない。もしわたしたちが自分たちの能力を世俗的な事柄に集中させるなら、それを妨げるものは何もない。しかし、わたしたちはなぜ宝をあくまでも天ではなく、地に蓄えるのであろうか。あなたが物事の順番を変えて、あなたの宝をいくらか天に蓄えると考えてごらんください。あなたはまもなく朽ちることのない宝を再び受けて喜ばないであろうか。……

キリストはすべての人にその働きを任命しておられる。第二の死は、働かない者の受くべき分となる。そして恐ろしい言葉が聞かれる。「あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ、行ってしまえ」(マタイ 7:23)。しかし忠実な僕たちが自分たちの報いを失うことはない。彼らは永遠の命を得る。そして「良い忠実な僕よ、よくやった」という言葉が彼らの耳に心地よい音楽のように聞こえるのである(マタイ 25:23)。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年7月28日)

7月29日

両親への神の約束

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

わたしたちは世という石切り場から原石として、真理のナイフによって持ち出され、神の作業場におかれたのである。キリストを自分の個人的な救い主だと信じる本物の信仰をもっている人は、真理が自分のために確かな働きを成し遂げることを発見するようになる。彼の信仰は働く信仰であり、そして信仰は愛によって働き、魂を清める。主イエスはわたしたちのために贖い代を支払われた。このお方はご自分を信じる人々が滅びることなく、永遠の命を持つようにとご自身の命を与えて下さった。信仰によって真理を受け入れる人々は、自分たちが働かせる信仰の質に対して証を担うようになる。彼らはわたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを仰ぎつつ、絶えず向上する。わたしたちは信仰を創造することはできない。しかし、わたしたちは信仰の成長と勝利を促進することにおいて、キリストとの共労者になることはできる。……

心におけるキリストの働きは、人間の力を破壊しない。キリストは魂の機能を支配し、強め、高尚にし、聖化する。わたしたちが世に対してこのお方のご品性を表すのに適した者となるのは、このお方を個人的に良く知ることによってである。ヨハネは、「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」と言った(ヨハネ 1:12)。そしてまた、「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」(同 16 節)。

キリストは家庭の輪の中で表されるべきである。父親や母親には重大な責任がある。なぜなら、彼らは自分の子供たちに正しい教訓を与える責任があるからである。彼らは子供たちに親切に話し、彼らに忍耐し、祈りつつ見張り、子供たちの心をかたち作って形成していただくために主に祈らなければならない。しかし、神に子供たちの品性をかたち作り、形成していただくようにと神に求める一方で、母親と父親は神の模範[パターン]の生きた描写を自分の子供たちに提示することによって、自分たちの役割を果たさなければならない。神はあなたの手による場当たりの働きをお受け入れにはならない。あなたの子供は神の嗣業であって、天の御使たちは、親も子供も神の模範に従って品性を築くことにおいて神との共労者であるかどうかを知るために見ている。(原稿 32, 1894 年 7 月 29 日 「七つの丘で会う」)

約束されているこの目のための力

「また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」(ペテロ第二 1:4)

わたしは肉体的な力と健康を、また精神の明晰さを切望する。それはわたしが神に受け入れられる奉仕を捧げられるためである。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである」(ヨハネ 15:16)。

み言葉には尊い約束が満ちている。わたしは視力を持つようになる。わたしは頭脳の力を持つようになる。わたしは知覚力の明晰さと聖霊の靈感を持つようになる。なぜなら、イエスのみ名によって求めるからである。尊い救い主。このお方はわたしのために命を与えて下さった。「ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい。「だれが、主の心を知っていたか。だれが、主の計画にあずかったか。また、だれが、まず主に与えて、その報いを受けるであろうか」。万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アアメン」(ローマ 11:33-36)。

わたしはすべての人が信仰によって受けられる利点を切望する。今こそ、わたしたちの命をキリストと共に神のうちに隠す好機である。わたしたちの時間の一瞬一瞬が尊い。神からわたしたちに貸し与えられている尊いタラントは、このお方の奉仕に用いられるべきである。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、神のものである自分のからだをもって、またあなたの霊をもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:19, 20 英語訳)

しかり、わたしたちは主の血によって買われた嗣業である。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」(コリント第一 10:31)。天の王国で神の家族を構成する一人ひとりに、神はこれを要求しておられる。すべての利己心は克服されなければならない。わたしたちは神に対して真実でなければならない。このお方のすべての戒めに対して鋼(はがね)のように真実でなければならない。人類は法律を立案し、そしてその立法化に非常に熱心である。同時に彼らは最強の主権者からの最高の律法は犯している。彼らはこれを無効にしようと努力している。彼らは人間の法律を神の律法よりも高めている。「『わたしはこれらの事のために彼らを罰しないでいられようか』と万軍の主は言われる」(エレミヤ五ノ九)。しかり、神はすべての人にそのわざに応じて報いられるのである。(原稿 70, 1897年7月30日日記)

7月31日

反対にどう対応するか

「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの「知識」による反対論とを避けなさい。ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである。恵みが、あなたがたと共にあるように。」(テモテ第一 6:20, 21)

神のためのわたしたちの働きにおいて、わたしたちは多くの反対に遭うであろう。偽りと欺瞞によって、ユダヤ人は民にキリストを信じさせまいと奮闘した。今日、偽教師たちは人々に真理の知識を得させないようにあらゆる手段に訴えるであろう。真理を愛するよりももつと誤謬を愛する人々がいる。なぜなら、真理は彼らの傾向と彼らの一連の行動に反対するからである。彼らは、真理の証拠がはつきりとしていて説得力があっても、悔い改めて改心することを拒む。彼らは、これらの事柄がはたしてその通りかを知るために、聖書を探ることを好まない。掲げられるべき十字架があるが、彼らは自己を否定することに不本意なのである。神は彼らにご自分の聖なる安息日を守るようにと仰せになるが、彼らは自分たち自身の道を捨てることを拒む。……

神の民の前には偉大で厳粛な働きがある。彼らは、全世界に憐れみのメッセージを伝えることを自分たちの一つの目的とし、自己否定と自己犠牲のうちにキリストのみ許近くに来なければならない。主が召して人々を導かれるときに、ある人々はある方法で働き、他の人は別の方法で働く。しかし、彼らはみな共に奮闘し、欠けたところのない完全な働きをするよう努めなければならない。神の僕たちは、筆舌を尽くしてこのお方のために労すべきである。真理の印刷されたみ言葉は、様々な言語に翻訳されるべきである。すべての人に、福音が宣布されるべきである。……

献身していない思いは、かつてもそうであったように、神のみ働きの道に障害物を置く。しかし議論や不愉快な問題を作り出すために立ち止まってはならない。もしある方法が阻まれるなら、道が開かれている方法で働くことによって神に誉れを帰す用意をしていなさい。今は乗り越えられないように見える障害物も、時が来れば取り除かれる。神はそうすることによってご自分のみ名に最もよく栄光を帰すことができになると思われる時に、最も予期しなかった方法で障害物を取り除かれるのである。……

試練は来るであろう。なぜなら、神のご目的に相反して歩んでいる人々が多くいるからである。あなたがこのお方の前に柔和と謙遜のうちに歩んでいることを確認しなさい。あなたは確かに誤解されることもあるであろう。しかし、悪口を言う人々は、あなたが絶えずキリストのご品性の美しさを表すならば、恥を被るようになる。(手紙 193, 1901年7月31日「親愛なる子供たち」へ)

研究 7

清めの特別な働き



2. 大贖罪の日における大祭司の立場と働き

準備された品性

先月、わたしたちは、清めの最後の働きを行うために、場所を至聖所に移されたわたしたちの大祭司イエスが、そこで調査審判の働きを始められたことを見ました。その審判では、記録の書が神の律法の基準に従って厳密に調査され、人々の運命は永遠に決まります。今、わたしたちは非常に厳粛な時代に生きているのです。

それでは、その調査で調べられるのは、何でしょうか？

すべての人が礼服を身にまとっているかを調べるため

「王は客を迎えようとして (to see the guests) はいってきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て」(マタイ 22:11)。

王が婚宴の前に客を見に来られたことは何を意味するでしょうか。

「こうして、王が婚宴の客を吟味したことは、審判のみわざをあらわしている。福音の婚宴に集まる客は神に仕えることを表明する者、その名がいのちの書に書かれている者である。しかしクリスチャンであると告白する者がすべてほんとうの弟子なのではない。最後の報酬が与えられる前に、だれが義人の嗣業にあずかるにふさわしいかが決定されなければならない。この決定はキリストが天の雲に乗って再臨なさる以前に行なわれなければならない。キリストがこられるときには、報いを携えてきて、『それぞれのしわざに応じて報い』られるからである(黙示録 22:12)。とすると、主の来臨の前にすべての人のわざがどんなものであるかがさばかれ、キリストの弟子の一人一人はその行為にしたがって報いが与え

られるのである。

調査審判が天の法廷で行なわれるのは、人がまだ地上に住んでいるときにおいてである。キリストの弟子であることを表明するすべての者の生活が、神の前で調べられる。すべての者が天の書物の記録に従って吟味され、その行為によって一人一人の運命が永遠に決定される」(キリストの実物教訓 289, 290)。

しかし、ローマ書にあるように、「義人はひとりもない」のです。調査される礼服、品性とは何でしょうか。

「マタイによる福音書 22 章のたとえにおいて、同じ婚宴の象徴が用いられ、婚宴に先だって調査審判が行なわれることが明示されている。婚宴に先だって、王は、すべての客が、礼服、すなわち、小羊の血で洗って白くしたしみのない品性の衣を着ているかを見るために入ってくる(マタイ 22:11、黙示録 7:14 四参照)。欠けていることを発見された者は、追い出されるが、調査の上で礼服を着ていることが認められたすべての者は、神に受け入れられ、み国にはいつて神のみ座のもとに座るに足る者と見なされるのである。品性を調査し、だれが神の国に入る準備をしたかを決定するこの働きが、調査審判の働きであり、天の聖所における最後の働きなのである」(各時代の大争闘下巻 145)。

ここで、王が吟味するのは、その人が準備したかどうかであることがわかります。どのように準備したものであるのか、もっと具体的に見ていきましょう。

準備された品性

王は、客を吟味するために入ってこられます(マタイ 22:11, 12)。これが審判の働きです。そして礼服は義の亜麻布です(黙示録 19:7, 8)。

この礼服は、神の義の標準である神の律法を、心を尽くして尊び、守っている人々(イザヤ 42:21)、しかし同時に、自分自身の義によっては、霊的な律法の要求を満たすことができない自分たちの無力さを自覚している人々に着せられます。

そこで、彼らはキリスト、すなわち人のためにその律法の要求を完全に満たされたお方を受け入れ、個人的にこのお方を自分の義として受け入れるのです(イエスの信仰：黙示録 14:12)。これが彼らの品性です。

これらが神の民であり、自分たちの魂を悩ませる経験によって調査審判を通して人々です(レビ記 23:27-32)。

上記が、聖書のみ言葉からわかる「準備」です。

預言の霊の言葉は、これを、どのように説明しているのでしょうか。

「神の御前に深く悔い改めた罪人が、自分のためのキリストの贖いを認めて、これを今の生涯およびこれからの生涯における唯一の希望として受け入れるとき、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。信じる魂は皆、自分の意志を完全に神の御心に順応させ、贖い主の贖いの功績を信じる信仰を働かせ、また力から力へ、栄光から栄光へと前進しつつ、悔い改めの状態を保つ必要がある。

許しと義認は一つであり、同じことである。信仰を通して、信徒は反逆者、罪とサタンの子の立場から、キリスト・イエスの忠実な臣民の立場へと移る。それは生まれつきの善のゆえにではなく、キリストが養子縁組により、その人をご自分の子として受け入れて下さったからである。罪人は、罪の許しを受ける。彼らの罪を身代わり、また保証人であるお方が負って下さったからである。主は、天におられるご自分の父にこう言われる。「これはわたしの子です。わたしは、彼の身代わりとなって彼の罪のために苦しみを受けたので、わたしの生命保険証書—永遠の命—を与えて、このものを死の有罪宣告から執行猶予にしました。これはわたしの愛する子です」と。こうして許され、キリストの美しい義の衣を着せられた人は、神の御前に欠点のない者として立つのである。

罪人は間違えることがあるかもしれないが、彼は憐れみもなく投げ捨てられるのではない。しかし、彼の唯一の希望は神に対して悔い改め、イエス・キリストを信じることにある。キリストがご自分で責めを負い、わたしたちの罪を許し、ご自分の義を与えてくださるので、わたしたちの不法と罪をお許しになるのは父の特権である。キリストの犠牲は、正義の要求を完全に満たしている。

義認は有罪宣告の反対である。神の無限の憐れみはそれに全く値しない人々にむかって働く。神は、わたしたちの罪のあがないの供え物となられたイエスのために、違法と罪とお許しになる。キリストを信じる信仰によって、罪を負った違法者は神の好意を得、永遠の命という強い希望に入れられるのである」(SDAバブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1170,1171 (ローマ 3:19-28))。

王が婚宴の前に調べたその礼服は、実は王ご自身によって準備されたものでした。それは大変な代価を払って準備された礼服でした。わたしたちの罪のあがないの供え物となられたイエスの犠牲によって、一人びとりのためにその礼服が準備されたのです。その大いなる犠牲と愛に感謝を表す唯一の方法は、この礼服—準備された品性—を身に着けていることだけです。

ですから、この調査は、この準備された品性、信仰による義を可能にして下さったキリストを知っている人々から始められなければなりません。なぜなら、これは婚宴に出席するための審判であり、罪を完全に除去するための審判だからです。

さばきは神の家から始まらなければならない

「『まずわたしの聖所から始めよ』。そこで、彼らは宮の前にいた老人から始めた」(エゼ

キエル 9:6)。

「聖所の外の庭はそのまましておきなさい。それを測つてはならない」(黙示録 11:2)。

「さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか」(ペテロ第一 4:17)。

「神の家というのは、生ける神の教会のことである」(テモテ第一 3:15)。

「ある人の罪は前もって明らかにされ、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る」(テモテ第一 5:24)。

「そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっている」(ヘブル 9:27)。

裁かれるべき人々

1. 神の働きをしたすべての人(各時代の大争闘下巻 212)
2. キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたすべての者(各時代の
大争闘下巻 215)
3. これまでにキリストの名をとなえたことのあるすべての者(各時代の大争闘下巻
219)
4. 各時代においてキリストに従う者であると称してきた人々(各時代の大争闘下巻
145, キリストの事物教訓 289, 290)
5. 神の民と称する人々(各時代の大争闘下巻 211)

「キリストの弟子であると自称する人々の中に、常に二種類の人々がある」(各時代の
大争闘上巻 36)。

「象徴的儀式においては、告白と悔い改めによって神の前に出て、その罪が罪祭の血
によって聖所に移された者だけが、贖罪の日の儀式にあずかることができた。そのように、
最終的な贖罪と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、神の民と称する人々だけ
である。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行なわれる」(各時代の
大争闘下巻 211)。

この審判は、ご自分の聖徒たちに御国を継がせるための審判です。彼らの罪を完全に
除去するための審判であり、小羊の婚宴につかせるための審判です。

このお方の御名を呼び求めるすべての人にとって、この準備こそ、今集中すべき働きでは
ないでしょうか。

(48 ページの続き)

の中で、このお方は神さまが何をもっとも尊いとみなしておられるか、また何が本当の幸福を与えるのかを説明なさいました。

救い主の弟子たちはラビたちの教えによって影響されていました。ですから、まずだれよりも先に、これらの弟子たちのために、キリストの教訓が語られました。このお方が彼らに教えられたことは、わたしたちのためでもあります。わたしたちは同じことを学ぶ必要があります。

「心の貧しい人たちは、さいわいである」とキリストは言われました(マタイ 5:3)。心の貧しい人たちというのは、自分自身の罪深さおよび必要を知っている人々のことです。彼らは自分自身では何もよいことをすることができないことを知っています。彼らは神さまからの助けを得たいと心から願います。ですから、彼らにこのお方の祝福が与えられるのです。

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕(くだ)けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす』(イザヤ 57:15)。

「悲しんでいる人たちは、さいわいである」(マタイ 5:4)。これは不平やつぶやきをいう人や、ひねくれてうつむいた表情で生活する人々のことではありません。それは自分たちの罪を本当に悲しみ、そして神さまにゆるしを求める人々のことです。

このような人々を、このお方はおしみなくゆるしてくださいませ。「わたしは彼らの悲しみを喜びにかえ、彼らを慰(なぐさ)め、憂(うれ)いの代りに喜びを与える」(エレミヤ 31:13)。

「柔和な人たちは、さいわいである」(マタイ 5:5)。キリストは「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うてわたしに学びなさい」と言われました(同上 11:29)。このお方は悪いとりあつかい受けられたとき、善をもって悪にむくいられました。こうして、このお方は、ご自分がなされたようにわたしたちがなすべき模範を残されました。

ワンタンの餃子

■材料

ワンタンの皮	一袋 (20 枚入)
グルテンバーガー缶詰め (乾燥バーガーでもよい)	100 g
ニラ	半束
ショウガ	一かけ
ニンニク	二かけ
醤油	小さじ 1
サラダ油	適量

■作り方

1. ニラを細かく切る (みじん切りではない)
2. ショウガ・ニンニクはみじん切りに切る
3. ①と②とグルテンバーガー、小さじ 1 のお醤油を一緒に混ぜる。
4. ワンタンの皮に、小さじ 1 杯の具を入れ、半分に折り、水で片面の端をのりのように指でぬらして閉じる。
5. 20 枚できたら、油でサッと少し、うすいきつね色に揚げる。
6. カリッとした感じになって、軽くいただけます。
7. そのまま召し上がってもよいですし、お好みにより、ショウガ醤油で召しあがっても美味しいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第17話 キリストの教え(1)

ユダヤ人のあいだで、宗教はきまった儀式(ぎしき)をひと通り行なうだけのものになっていました。彼らは神さまの真の礼拝から離れ、そしてこのお方の言葉の霊的(れいてき)な力を失っていたので、その不足(ふそく)を、自分たち自身の儀式や伝統(でんとう)を加えることによって、補おうとしていました。

キリストの血だけが罪から清めることができます。キリストの力だけが罪を犯すことから人を守ることができるのです。しかし、ユダヤ人は救いを得るために、自分たち自身のわざや宗教儀式にたよっていました。彼らは、自分たちがこれらの儀式に熱心であったので、自分自身は義人(ぎじん)であり、そして、神さまの王国に場所を得るのにふさわしいと考えていました。

しかし、彼らの希望は、世的な偉大さに集中していました。彼らは富と権力にあこがれ、これらのものを、自分たちのうわべだけの敬虔(けいけん)さの報いとして期待していました。

彼らはメシヤがこの地上にご自分の王国を建て、人々のあいだで力強い君主(くんしゅ)として支配するのを待ち望んでいました。彼らはこのお方が来られるときに、すべての世的な祝福を受けることを望んでいました。

イエスさまは彼らの望みがくじかれることをご存じでした。このお方は彼らが探し求めているものよりもはるかに良いものを教えるために来られたのでした。



このお方は神さまの真の礼拝を回復するために来られました。このお方は純粋な心の宗教をもたらすために来られたのであって、それはおのずと純粋な生活や聖なる品性のうちにあらわれるのでした。

美しい山上の垂訓(すいくん)

(45 ページに続く)